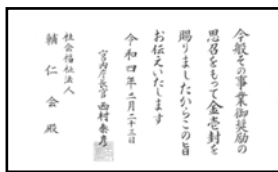


「御下賜金」と「言語化」 理事長 大浦 純平



この2年半に渡るコロナ禍の下で、輔仁会の各園においても休園に追い込まれたり、クラス閉鎖があったりと保護者の皆様にご迷惑をお掛けする事態が続いています。一刻も早い収束が待ち望まれます。

★ さて、この度、当法人は天皇陛下より社会福祉事業御奨励の思召しをもって、民間福祉事業に係る**事業成績優秀な団体**であるとして**金一封**を下賜されました。これは私の母、大浦仁子による1965年の創立以来、57年間保育事業を支えてもらった歴代の園長先生方を始め、多くの職員へのご褒美であり、また、温かく見守りご協力を頂いた保護者の皆様のお蔭だろうと思っています。

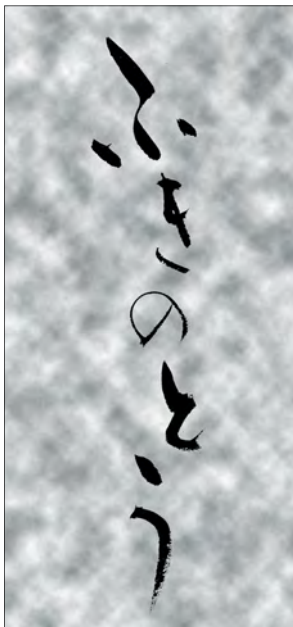


★ 次に、私共は保育理念として、「子どもたちに最善の喜びと幸せを 子育てに夢と力を」という言葉を掲げ、保育の拠りどころとしています。今回、その道のプロに依頼し、日々の保育行動を職員から聞き取りをもらい、その一つ一つが言語化されました。一部をご紹介します、「その子の気持ちを、一緒に探す。」「気持ちを汲み取り、想いを返す。」「その一瞬を見逃さない。その一言を、聞き漏らさない。」「全員を感じる。一人に向き合う。」「好奇心で、子どもに負けない。」「一人一人の『やってみよう』を大切に。」等々、思いもよらぬ素敵な表現がなされたことに驚きました。連続と引き継いできた保育が言語化され自分たちが現場で実践している保育の一つ一つが言葉により裏打ちをされたことに保育者たちは大いに感動を覚えました。

★ 今回の『ご奨励』を機に、そして、『言語化』された実践の一つ一つを心に刻みながら、「最善の喜び」を提供できるよう、保育計画を更に深化させなければと思います。

結びとして、近ごろ保育の世界も近代化の波が押し寄せつつあり、経営の効率化や、選ばれる保育園になるための方策をと、かまびすしくなっています。私共もその対応を考えなければならない時期なのかとは思いますが、古い頭では上手く対応出来るのか甚だ自信がありません。それでも、引退前に、後ひと踏ん張りしてみようと思っています。

皆様の応援を宜しくお願い致します。



新宮つばみ保育園年報 第12号

2022年(令和4年)9月1日 発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会
新宮つばみ保育園

〒811-0124 糟屋郡新宮町新宮東5-1-18
<http://www.hojinkai.ed.jp/s-tsubomi/>



未だコロナの収束が見えず、元の当り前と思っていた日常は果たして戻ってくるのかと心配です。
三園で、陽性の一報と同時に急なお迎えや登園自粛をお願いする状況があり、お困りであろうにも関わらず直ぐに対応頂き保護者の皆様には感謝いたします。職員も様々な感染防止対策をしながら、子どもたちに例年と変わらぬ保育を、幼児期に大切な経験を、と苦労の日々を重ねていること、有難い限りです。行事においても出来たこと出来ない

かつたことがあり、昨年は青組の音楽祭は各園毎の入替で開催しましたが、劇遊びの発表会は三園とも中止となり残念でした。しかし、園での保育を間近で見て頂く機会には僅かでしたが、職員皆子どもたちについていける愛情を注ぎ関わってきました。この子たちの将来が幸せであるようにと願

コロナ禍と地球と

統括次長 大浦まゆみ
(元 新宮つばみ保育園 園長)

もひとつ心配なことがあります。地球温暖化、異常気象、自然災害、絶滅危惧等。人間が地球から享受しすぎた結果ででしょうか。この子たちが大きくなった時地球はどうか。子どものか、それでいいのか。子どものために大人の幸せのため、大人が真剣に考えてできることを皆が行動しなければ、恵み豊かな地球を蘇らせなければ、と強く思うこの頃です。



統括次長 大浦まゆみ

この頃です。

我が家のルール

2022年度 父母の会 会長 柳田 千春



我が家には「怒った人が負け」というルールがあります。

怒りという感情は年齢問わず、誰にでもある感情です。しかし、怒りの感情をそのまま言葉や行動として表現することは相手には何も思いが伝わらない事。また、自分も心身ともにエネルギーを使い疲れてしまう為、誰にもいい結果は生まれないことを子ども達に伝えていきます。

しかし、我が家で1番イライラと怒りをあらわにしているのはこの私なのです…。これはいかん！お手本には全くなっていない！と思う日常で、目についた「アンガーマネジメント」という言葉。怒りの感情をコントロールする方法・スキルのことで、アメリカで開発され、日本でもビジネス・教育、医療等、さまざまなシーンで生かされています。これを行なうことでストレスの軽減、他者への尊重・理解を深めることができるのだそうです。

その中で2つ、私が試したことをご紹介いたします。

①6秒待つ

とにかくイラッとしたらただ何もせず、言わずに6秒間じっと待ちます。6秒…短いと思われるでしょうが、それがイライラしている時の6秒間は意外に長く感じます。そして6秒では治まらず、追加で6秒…6秒…待つことが苦手な私には大変な試練です。

②深呼吸をする

怒りの感情は呼吸が浅く早くなります。深呼吸は医学的にも怒りの沈静に効果があるのではないかとされているようです。

私の場合は①、②を合わせてやってみると魔法にかかったように気持ちが落ち着いていき、必死に深呼吸をしている自分がかんたか可笑しくなってきました。

毎回必ず上手くいくわけではありませんが、この方法を知ってから以前より苛立つことが減り、育児や家事・仕事の中でのストレスを少し減らすことができていると思っています。

皆さんもぜひ試してみてください。

コロナ禍となり三年目の夏です。マスク着用も慣れてはきましたが、真夏はやっぱり苦しく感じます。新型コロナウイルス感染症が蔓延して以来、保育園でうたを歌う事がためらわれる時期もありました。が、保育園では大人はマスクを着用しながらも毎日子ども達とうたを歌っています。

そんな中先日、新しく仲間入りした職員のためにささやかな歓迎会を行いました。その時に歓迎の気持ちとこれから一緒に頑張ろうという気持ちを伝えたく、先輩職員達が考えたのは、新しい仲間へのうたのプレゼントでした。男女混声

数日しか経っていない赤ちゃんなのに、私がうたを歌うとじつと耳を傾けて、泣くのを止めるのです。歌ってもらう心地よさを感じているように見えます。

大人だつて子どもだつて、うたを歌うと楽しかったり、嬉しかったり、勇気もらえたり、安心したり、落ち着いたり、心がたくさん動くのがよくわかります。うたの力で凄いですよね。

そんなうたを、私はこれからも子ども達に歌ってあげたいし、みんなと一緒にうたを歌いたいなと思います。

うたが歌いたい

園長 藤井 由理



タブレット端末で給食クイズ

昨年より取り組みを始めた「給食クイズ」。これまでは栄養士の手書きのクイズを貼っていましたが、そのやり方だと文字の読めない子はイラストを見てなんとなく答えることしかできませんでした。そこで今年度からは、クイズをデータ化し、年長の各クラスでタブレット端末を使って担任がクイズを読み上げる形に変更しました。これによって、問題が分かりにくい場合は補足説明できたり、写真や画像などを添付したりすることができるようになりました。



また、クイズをきっかけに子どもたちから自然に出てくる疑問も以前より増え、クイズを出す側の大人も興味や知識が深まっています。今回デジタル化を試みる際サンプルケースを見ながら親子で一緒にクイズをする時間も大切にしたいという思いから、今まで通りの「紙のクイズも残すこと」にしました。デジタルとアナログとの両方の良い部分を使いながら、子どもたちに楽しく食育を伝えていけるとよいなと思います。

(栄養士 小椋由香利)

「主任保育士として」

主任保育士 土谷賢吾



私は保育士として働き始め、今年で13年目になります。新宮つぼみ保育園には現在男性保育士は一人しかいませんが、女性職員の皆さんが優しく接してくれるおかげで、楽しく働くことができています。そして、今年度からは主任保育士として務めさせていただくことになりました。今まで保育士として積み重ねてきたことを、新たな立ち位置で生かしていこうと決意し、2022年度を迎えました。

私事ではありますが、我が家には1年生の娘と4歳の息子がいます。特に娘は4月から小学校に通い始め、環境が大きく変わりました。小学校で上手くやっていけるだろうかという思いが増え、保育園にお子さんを預けてある保護者の気持ちがよく理解できたことを、身をもって実感しています。保護者の目線に立った時に何が出来るか、そして子どもの目線、保育園の目線…。それぞれの立場を経験しているからこそ見えてくること、自分には出来ないことがあると思っています。子ども、保護者、保育園、この3つの関係性をより良いものにしていき、みんなのサポートが出来る存在でありたいと思っています。不慣れな点も多いですが、皆さんの力を借りながら主任保育士の職務を全うしていきたいと思っていますので、今後とも宜しくお願いいたします。

お米作り 続いてこの話題です。一昨年のバケツ稲から始まり、昨年は畑の半分を田んぼにしてお米作りをしました。田んぼの泥に足を踏み入ると、ニユルとした感覚が楽しい子、ちょっと気持ち悪い子など反応が様々でした。稲の成長とともに生き物の成長も楽しみにしていて、毎日田んぼを覗き込んで、「おたまじゃくしから足が出てきた！」など、たくさんの発見がありました。



稲穂が実り始めると、ズメ対策をしたり、風よけを設置するなど、無事に収穫できるように情報をかき集め、小さな田んぼから収穫できたお米の量は、約1.8升となり、そのお米で、年長児の1日分の給食のご飯として提供することが出来ました。お米を研ぐところも青組の子どもたちと行き、炊飯器で炊きあがったご飯を見ると、「うわ〜！美味しい！」と満面の笑みがかげられました。実際に食べてみると、「甘くて美味しい！」「おかわりしていい？」など、予想以上に子どもたちが良い反応を示してくれて、育ててきた甲斐があったなど実感しました。そんなお米作りも今年で3年目になります。昨年のような子どもたちの笑顔が見られることを願って、現在稲の成長を見守っているところです。



子ども達が毎日のように遊んでいる鉄棒や雲梯、クライムネットの下にラバマットを敷きました。子どもたちは、季節によって裸足で遊ぶこともあるのですがラバマットを足で踏んで「ふかふかする」など言いながら遊んでいます。どれも子どもたちが大好きな遊具で、毎日のようにそれぞれの遊具に子どもたちが集まり「先生見よって！」と言いながら鉄棒での逆上がりなど、何度も挑戦する姿が見られます。

(副主任保育士 中村千里)

子どもたちが安全に遊ぶことが出来るように

また、ジミー(大型遊具)の階段には滑り止めを付けました。ジミーの滑り台はとても人気のある遊具なのですが、何度も繰り返し滑り台を滑るうちに楽しくなってしまう階段を走って登る子もいます。その都度「階段は歩いて登ろうね」という約束をしている所です。階段に滑り止めを付けたことで、階段で滑って怪我をするリスクはぐんと下がっているのではないかと思います。足元を気にしながら登っている子どもたちです。

今後も安全に遊ぶことが出来るよう園庭にある遊具などの定期点検を行い、怪我に十分気を付けながら子どもたちが遊ぶ様子を見守っていきたいと思います。

本園と分園

新宮つぼみ保育園には分園があります。現在は子ども18名の小さな保育園です。私は今年度から分園に異動し本園から離れた分園に「少し離れた所にクラスがある」という思いで同じように保育をしています。

年間数回ですが、避難車で行って園庭で遊んだり、プールに入ったりしています。分園には砂場がないので、本園に遊びに行くと、子どもたちはみんな砂場に座り込み夢中で遊びます。本園の未満児は3、4、5歳児の行事にいつでも簡単に参加できるので、なるべく同じように参加したいと思い、消防車見学、もちつき、クラス移行(新年度本園に移動する子のみ)などの行事には参加しています。運動会は今年度はコロナ禍で、ミニミニ運動会を本園の園庭で実施していますが、例年は本園と分園合同で開催しています。また、昨年度より土曜日の保育も本園にて行い、一緒に過ごしています。

このように本園と分園の繋がりを大切にしながら、子どもたちが同じような経験をし、育っていくことが出来るよう願っています。3歳児になり本園へ進級する時に戸惑うことなく一緒に過ごすことが出来たらいいなと思っています。(分園主任 中岡千晶)



2022年度 父母の会役員

会長 柳田 千春 (つくし)

副会長	大木 華蓮 (つくし)
	後藤 まどか (れんげ)
	高木 舞 (れんげ)
会計	山口 留衣 (つくし)
	工藤 香奈恵 (つくし)
監事	清水 今日子 (れんげ)
	稲田 鮎美 (うめ)
委員	高橋 美咲 (もも2)
	安藤 優子 (すみれ)
	沖永 サラ (つくし)
	末松 真衣 (すみれ)
	田中 綾子 (つくし)
	豊島 さやか (すみれ)
	文野 慎子 (すみれ)
	本田 岳大 (つくし)
	森川 俊亮 (すみれ)
	顧問

2022年度 職員構成

(8月20日現在 44名)

園長 藤井 由理

本園	
事務長	大浦 有平
主任	土谷 賢吾
副主任	中村 千里
給食主任	小椋 由香利
もも1	小南 早襟・武内 美樹
もも2	中村 千里(※)・岩本 海奈 山口 歩美 岡崎 久美子
うめ	大賀 桃花・山内 香彩 増丸 伴美・日野 純子 片岡 真理子
すみれ	山本 紗代・宿利 晴子
れんげ	稲田 有希・井手 沙綺
つくし	津留崎 愛夢・永末 映里
フリー	吉富 美緒・馬場 小純 神谷 晴子・成清 千尋
給食員	小椋 由香利(※)・桐島 知子 脇谷 浩美・則本 由美子 徳永 まゆみ・石川 藤子 松田 知視
事務員	山口 和加奈
保育補助	堀田 登代美
用務員	内野 和喜・長野 よし子
育休中	阿部 麻央
分園	
分園主任	中岡 千晶
もも2	中岡 千晶(※)・片淵 豊美
うめ	奥本 かな子・北村 知子
フリー	佐藤 明美・北村 祥子 八尋 雅世
保育補助	山口 三紀子

(※)は再掲